

カーチス・ウィルバー「司令官年次報告・2004年」

2005年3月20日

Command History for 2004

「(前略)4月遅く、カーチス・ウィルバーは横須賀に戻り、米海軍で最初の現役の弾道ミサイル防衛(BMD)艦になるための準備を開始した。

続く3ヶ月のあいだ、カーチス・ウィルバーは、BMD パトロールに備えて通信及び戦闘システム全体に大幅に改良を加えた。ポート・ヒューネメ海軍洋上戦争部、横須賀艦船修理部(SRF)、及び横須賀洋上戦闘システム・センターの専門家の助力を得て、カーチス・ウィルバーは、この先駆けとなる配備に備え、装置においても訓練においても変革を遂げることができた。カーチス・ウィルバー乗組員は、専門技術を駆使して、単に新しい装置や任務を学ぶのみならず、それを基礎にして発展させ、他の BMD 艦の手本となる教義や訓練を確立した。

数ヶ月の厳しい取り付けと訓練をへた後、7月中旬、カーチス・ウィルバーは BMD 装置と理論を試すために海に出て、同時に、第15駆逐艦隊中期サイクル評価を受けた。(略)

ダナンの後、カーチス・ウィルバーは、横須賀に戻って、さらに2ヶ月、BMD 準備を行った。初春と同じやり方で、カーチス・ウィルバーは必要な広範囲の取り付けや訓練を続けた。文字通り最初の BMD パトロールは9月の最後の週に始まり、カーチス・ウィルバーは横須賀を出航して日本海に向かって北上した。

2004年10月1日、カーチス・ウィルバーは作戦区域にあって、合衆国の防衛のために改修した SPY-1D レーダーを北朝鮮上空に向かって照射した。2週間の実証パトロールを通して、カーチス・ウィルバーは BMD 批判派と2個の台風の両方の攻撃を避けて新しい任務のために可能な最善の擁護を行った。カーチス・ウィルバーは、今後日本海に展開するであろうすべての駆逐艦に対する基準となるであろう。(後略)

---

フィッツジェラルド「司令官年次報告・2004年」

2005年4月21日

Command History for 2004

年表欄:

(前略)

11月29日 - 12月16日 日本海を航海。弾道ミサイル防衛・限定防衛作戦。(以下略)

記述欄:

フィッツジェラルドの2004年は、1月から3月にかけての厳しい9週間の海軍作戦部長・特別修理(SRA)で幕が開けた。BMD能力や戦術トマホーク兵器制御システム(TTWCS)などの最新戦闘システム一式とC4I技術を装備するためであった。

(略)11月末から12月19日にかけて、フィッツジェラルドは国土弾道ミサイル防衛・限定防衛作戦(BMD LDO)に参加する2番目の船となった。数週間にわたって、フィッツジェラルドは、注意深い監視を続け、検知されることなく、BMD LDO の役割と経験を洗練するのに役立った。(後略)